



Title	The Political Ecology of Salt : Dynamics of Agrarian Change in Rural Kupang, Indonesia [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	ALFIAN, HELMI
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第13841号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/78696
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Alfian_Helmi_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：Alfian Helmi

主査 准教授 笹 岡 正 俊
審査委員 副査 教授 宮 内 泰 介
副査 教授 小 田 博 志

学位論文題名

The Political Ecology of Salt:

Dynamics of Agrarian Change in Rural Kupang, Indonesia

(塩のポリティカルエコロジー：

インドネシア・クパン農村部における土地利用・保有の変化の動態)

・当該研究領域における本論文の研究成果

私企業や国家が大面積の土地を囲い込み、地域住民の土地・資源利用を排除もしくは制限する行為は「ランド・グラブリング(land grabbing)」と呼ばれ、食糧、油脂、バイオ燃料生産のための大規模な土地の取得や長期リースが進んだ2000年代半ば以降、ポリティカル・エコロジーや農民研究(peasant studies)の分野で主題化されるようになってきた。インドネシアでは、産業造林、鉱山開発、アグリビジネス(アブラヤシ農園開発など)を対象とした研究については蓄積があるが、製塩企業によるランド・グラブリングを扱った研究はほとんど存在しない。本論文はこの分野におけるこうした研究上の空白を埋めるものとして位置づけることができる。

以上の意義に加えて、本論文の主要な研究成果として、特に以下の2点が指摘できる。

第一に、クパン農村部の製塩事業を事例に、地方分権化以後の私企業による大規模な土地権獲得の複雑なプロセスを複雑なものとして子細に描き出した点である。塩の国内自給政策を背景に進んだ製塩事業のための大規模な土地の囲い込みは、スハルト権威主義体制下で見られた、国家の後ろ盾を受けた私企業が小農の土地を一方向的に奪うといった単純な過程ではなく、国レベル、地方レベル、村レベルの多元的なアクターが、競合したり、協調したりする複雑な相互作用の産物として現出したものであった。その複雑なプロセスをアクター分析の手法を用いて、単純化することなくありのままに描いた。

第二に、研究で明らかになった知見をもとに、小農の土地権の保障にむけてどのような政策が必要かを論じている点である。塩の国内自給を達成し、産業と食生活に欠くことのできない塩の安定的供給を図るというそれ自体に異論をさしはさむことの難しい言説を、様々なアクターが自らの利害に引き寄せて動員することで、製塩企業による土地の囲い込みが進み、地域住民は結果的に慣習地から引き離されてしまった。こうした事態を踏まえて、本研究では、私企業が事業権を付与する際には「事前に十分な情報が与えられたうえでの自由意思に基づく同意(free, prior and informed consent)の原則を適用する必要があることや、大規模製塩事業だけに頼るのではなく、現存する小農による小規模塩生産の促進を図る必要がある」といった提言がなされている。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は、上で述べた成果を評価し、本論文が博士学位論文の水準に達していることを認めた。しかし、次のような問題も指摘された。すなわち、地方分権化後の私企業による大規模な土地権の獲得を扱った他の研究との関連付けが十分になされていないこと、また、小農の土地権の保障にむけた提言が若干具体性に欠けること、などである。尚、これらの問題については一部修正を求めた。

以上の問題点はあるものの、これらが本論文の価値を大きく損なうものではないことは審査委

員会の一致した意見であった。

以上の審査結果から、本審査委員会は全員一致で Alfian Helmi 氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。